

1年生 職業人講話で学んだことが 新聞に掲載される！

北陸中日新聞 朝刊 令和3年3月2日（火）

やりたい仕事 誰かのために

中学生 手取 賢輔 13 石川県白山市

「人生は自分のものだから、良いことも悪いこともあるが、いろんな職業があるから自分のやりたいことを素直にやればいい」。こうおっしゃったのは職業人講話に来てくれた北陸製菓の社長高崎憲親さんだ。働くことは窮屈だというマイナスイメージがあったが、僕はこの言葉で働くことに興味を持てた。高崎さんは人の喜ぶ顔を見るために仕事をしてきたそうだ。僕はここで、誰かのために人は働くと気付かされた。

どんな仕事につきたいとかいう具体的なものはまだないが、いつか誰も思い付かなかったことをやってみ

たい。だから、まずは身近な夢から始めていこうと思う。勉強と部活の両立など、近い夢を積み重ねていけば必ず僕の大きな夢にたどり着くはずだ。

そして、良いことも悪いことも受け止め、自分のやりたいことをできる大人になりたい。



北陸中日新聞 朝刊 令和3年3月5日（金）

頑張っている姿 強い憧れ

中学生 表 虹星 13 石川県白山市

職業人講話を受けて自分の将来への考え方が変わった。元カタル航空のキャビンアテンダント清左優美さんから、仕事には重責があり困難な中でも、人を笑顔にし役に立てるものだと学んだ。

私は今まで、働くことは人をただ応援するものだと思っていた。でも、人の役に立つためにはさまざまな困難を乗り越えていかなければならないのだと気付いた。そして、誰かのために努力し、頑張っている姿に強い

憧れを持った。

私の夢である「歌手」も、きっと誰かのために見えない努力をたくさん積み重ねてい

る。今の私にできる努力は何だろう。歌の練習にしても、英語の発音や音程を正しく取る練習など、今すぐできることがあるはずだ。私にできることを探し、未来の私の世界を広げ、普段の生活の中から自分らしさを見つけていきたい。

